

Shiny+

コロナ禍でのデイケア

コロナに始まり、コロナで終わりそうな令和2年度、皆さんにとってどんな一年だったでしょうか。私にとっては「コロナ禍だから出来なくても仕方がない」ではなく、「コロナ禍でもどうやったらやれるか」を考える創意工夫の一年だったような気がします。

今回は、年度後半のイベントをその取り組み方と一緒に振り返りたいと思います。

1. コロナ禍でのデイケア室

飛沫感染を防ぐためにアクリル板を設置（写真ではアクリル板は見にくいかもしれませんが）。また、椅子と机はソーシャルディスタンスを確保しつつ、お互いに顔を見ながらプログラムに参加できるようにその位置を工夫しています。



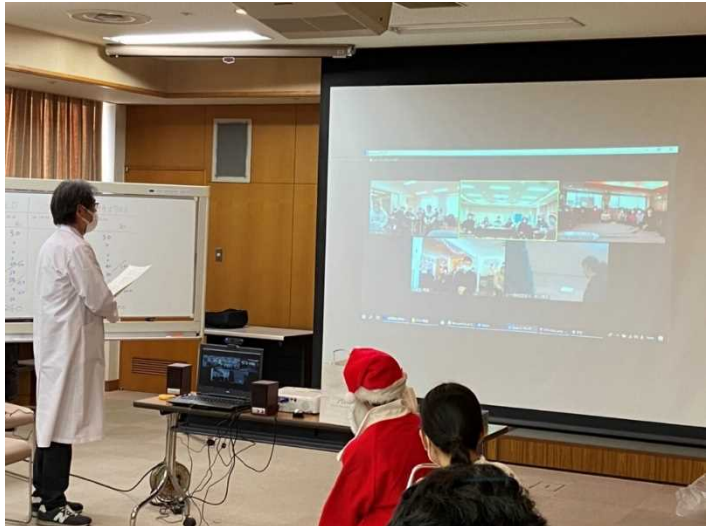
2. コロナ禍でのイベント

(デイケア川柳会)

滋賀県では、県内に10か所ある精神科デイケア利用者による、卓球と川柳の交流会を毎年開催しています。

令和2年度は感染予防の観点から、県内の利用者が一堂に集まる卓球大会は中止せざるを得ませんでした。しかし、事前に作品を募集し、投票を行い、卓球大会当日に表彰式をしていた川柳大会については

表彰式を ZOOM によるオンライン形式に変更することで実施することが出来ました。



オンライン環境の制約もあり、参加できない施設もありましたが、コロナ禍でなかなか他のデイケアと交流できない中、お互いに顔を見られる貴重な場面となりました。

ちなみに当センターデイケア利用者の作品も入賞したので紹介します。

<テーマ『コロナ』部門 銀賞>

コロナ禍で 大切さが分かる “当たり前”

<テーマ『フリー』部門 金賞>

さりげない 人のやさしさ 身に染みる

どうですか？ 短い言葉の中にうまく色々な思いが込められていると思いませんか？

(デイケア文化祭)

自分たちのやっていることをいろんな人に知ってもらおうという思いから例年行ってきたデイケア文化祭ですが、人を集めるということは新型コロナウイルスの感染リスクを高めるため、難しいという話になりました。では、代わりに何かできないかということで、デイケアを紹介する冊子とプレイすることでデイケアのことがわかるゲームを作ってみようということになりました。

① ゲーム：デイケアライフゲーム

プレイのしやすさ等を考え、ゲームはすごろく形式のものを考案。デイケアでのあるあるを共有しながらゴールに向かうゲームになっています。

メンバーで実際にやってみると、抜きつ抜かれつの接戦になり、楽しく、デイケアの雰囲気が感じられるというねらい通りのものになりました。



② 冊子：デイケアガイド

デイケアのプログラムやメンバー、OB へのアンケート等の記事が載った19ページの大作です。これを見れば、デイケアのことが全て分かる……かも。



<あとなぎ>

振り返ってみてどうだったでしょうか。『コロナ禍』という言葉が象徴するように、令和2年度は何もかもコロナに振り回された印象があるのは確かです。しかし、その中でも何かできないかと考え、実行できたこともあったと思います。一年を振り返って、「ベストではないけど、ベターではあった」というふうに思ってもらえればうれしく思います。